

第4章 今後4年間に取り組む施策

重点項目 Ⅰ

未来を拓く力を育む教育の推進

■推進項目 1

学びを豊かにする教育DXの推進

■成果指標

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う児童生徒の割合（文部科学省 全国学力・学習状況調査）

令和4年度実績

小学校 93.4%、中学校 89.9%
（いずれも全国平均以下）
[全国平均] 小学校94.5%、中学校92.5%



令和8年度目標

小中ともに
全国平均以上

指標の説明

毎年小6・中3対象の全国学力・学習状況調査において、「ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標として選定。

積算根拠／得られる成果

ICT活用に対する児童生徒の肯定的な回答について、全国平均以上となることを目指す。ICTの効果的活用が、学びを豊かにし教育DXを推進することにつながる。

■成果指標の実現に向けた工程表

具体的な取組	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
G I G Aスクール構想の推進	1人1台端末の効果的活用	通信環境の改善・1人1台端末の更新		
情報モラル教育の充実	教職員研修の充実・家庭等への啓発			
学校現場における生成A Iの適切な利活用	教職員研修の実施	モデル校での取組・事例収集	好事例の横展開	

施策の方向性① G I G Aスクール構想の更なる展開

徳島県G I G Aスクール構想によるI C T環境を活用した児童生徒の資質・能力の育成や、I C Tを活用するための環境の整備等、G I G Aスクール構想の更なる展開を図ります。

【今後の取組】

- 「徳島県学校教育情報化推進計画」に基づいて各施策を展開し、学校教育の情報化をより一層推進します。
- 県立学校において、1人1台端末などを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、安全・安心で快適なI C T環境の整備を図ります。
- 県・市町村が連携した「徳島県G I G Aスクール構想推進本部」を中心に、各施策の展開に際し機動的に情報を共有し、教育D X[※]による学び・指導の変革とI C Tの効果的活用の推進を図ります。

※ 教育D X：デジタル技術とデータを活用して、知見の共有と新たな教育価値の創出を目指すこと。D Xは、デジタルトランスフォーメーションの略称。

施策の方向性② 先端技術を活用した教育の推進

情報社会に主体的に参画し、「Society5.0」を牽引する人材を育成するため、教育データの利活用に関する研究の拡充や、A R・V Rなどの先端技術を活用した教育のより一層の推進を図ります。

【今後の取組】

- C B T[※]による学力調査など、教育データを利活用した児童生徒の個別最適な学びや教職員の指導力向上、働き方改革などに資する取組を推進します。
- 高等学校の教科「情報」などにおいて、データを収集、整理、分析する学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用できる資質・能力の育成を図ります。
- 情報通信技術を活用したリモートでの双方向の学習により、新たな交流の可能性を広げる取組を推進します。
- 地域の活性化及び地方創生を担う人材を育成するため、徳島の魅力ある観光資源のV R映像の制作等、先端技術を活用した教育の一層の推進を図ります。

※ C B T：Computer Based Testing（コンピュータを使用した調査）の略称。コンピュータ上で調査を行うことで、データ活用による多角的な分析や作業の負担軽減等が期待される。

施策の方向性③ ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学習の基盤となる情報モラルを含む情報活用能力の育成や、ICTの利活用による遠隔・オンライン教育の推進等、子どもたちの発達段階や学習段階に応じた教育活動を推進します。

【今後の取組】

- スマートフォンなどが広く普及し、学校の内外で児童生徒が情報端末やサービスに日常的に触れる機会が増えていることや、日常生活における生成AI[※]の普及も念頭に置き、児童生徒の発達段階に応じたICTスキルや情報モラルを含む情報活用能力の育成と、研修等を通じた教職員の資質向上を図ります。
- 「生成AIの特性を生かして、足りない視点を見つけ議論を深めること」や「高度なプログラミングを行わせること」など、効果的な生成AI活用に関する実証を行い、教育現場での教育資源としての生成AI活用を積極的に進め、子どもたちの学習効果の向上や教員への教育支援の強化など、教育の質の向上を図ります。
- 小規模化する県立学校における生徒に対する教育機会を確保し、多様な学習ニーズに応えるため、遠隔授業の更なる充実を図ります。

※ 生成AI：文章や画像などの様々なコンテンツを生成できるAI（人工知能）のこと。生成AIがあらかじめ学習したデータ等をもとに、新しいコンテンツを生成することができる。

■推進項目2 持続可能な社会を実感する「徳島ならではの」教育の推進

■成果指標

エシカル消費実践事例数（県学校教育課調べ）



指標の説明

エシカル消費の推進に取り組む学校の実践事例数。エシカル消費に関する活動の更なる普及・促進を図り、多様な主体との連携等、社会の変化に応じた実践を推進するためには、好事例の横展開が重要であることから、この指標を選定。

積算根拠／得られる成果

毎年、すべてのエシカルクラブ設置校においてエシカル消費に関する取組を実践することを目指す。
好事例の横展開により各県立高等学校等の強みを生かした持続可能なシステムの構築をはじめ、エシカル消費の更なる普及・推進につながる。

■成果指標の実現に向けた工程表

具体的な取組	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
各学校段階における推進	発達段階に応じたエシカル消費教育の充実			横展開
特別支援学校のエシカル消費に関する取組の推進	産官学との連携		好事例の横展開	

施策の方向性④ 「とくしまGXスクール」の推進

脱炭素社会の実現に向け、持続可能な社会の担い手を育成するため、環境負荷の低減や自然との共生に継続的に取り組む学校を本県独自に「とくしまGXスクール」として認定し、児童生徒一人一人の意識改革と行動変容を促す取組を推進します。

【今後の取組】

- 「とくしまGXスクール」の認定取得をより一層進めるとともに、認定校の中から取組を先導する学校を「スーパーとくしまGXスクール」に指定します。指定校は大学などと連携しながら持続可能な開発目標（SDGs）の先進的な学習に取り組み、新たな環境学習プログラムを開発し、その成果を他の学校に広く普及します。
- 児童生徒が自分のエコ活動を振り返り、持続可能な開発目標（SDGs）との関連を可視化する「とくエコポイントシステム」を構築し、学校での積極的な活用を推進します。
- 環境首都とくしま創造センター（愛称：エコみらいとくしま）と連携を図り、エコリーダー（教員）を養成する研修会や、脱炭素型ライフスタイルへの転換を地域・家庭へ啓発するフォーラムを開催します。

施策の方向性⑤ サステナブルな社会に向けたエシカル消費教育の推進

エシカル消費の更なる普及・促進を図るため、エシカルクラブの取組を通して多様な主体と連携し、研究・実践を一層推進するとともに、特別支援学校の生徒による、企業と連携した新商品開発や地産地消の取組を行います。

【今後の取組】

- 各学校の取組の紹介などを通して、幼・小・中・高等学校の系統的・体系的な消費者教育の普及を推進します。
- エシカルクラブの取組をはじめとするエシカル消費に係る実践を、県内外及び海外に向けて発信します。
- 特別支援学校の強みを生かしたリサイクル活動や地産地消等、エシカル消費の取組にチャレンジするとともに、持続可能なシステムの構築に向けた取組を推進します。

■推進項目3 世界と徳島をつなぐ、グローバル人財の育成

■成果指標

生徒の英語力（文部科学省 英語教育実施状況調査）

令和4年度実績

中3生 52.1%
高3生 50.0%



令和8年度目標

中3生 60.0%
高3生 60.0%

指標の説明

毎年実施されている文部科学省「英語教育実施状況調査」における「求められる英語力を有する生徒」の割合。国際社会で活躍するためには、英語力が重要なことから、この指標を選定。

積算根拠／得られる成果

令和4年度の実績値から、毎年約2ポイント増を目指す。
この目標達成により、国の第4期教育振興基本計画（R5～R9）目標値60%を達成。さらに、英語によるコミュニケーション能力を備えた、グローバル人財育成を促進。

■成果指標の実現に向けた工程表

具体的な取組	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
調査結果の分析・活用	調査結果分析・検証		改善の方向性の周知・実践	
県英語教育推進計画の推進	計画の推進	成果の検証	新たな課題への対応	
英語による 国際体験活動の推進		実施・推進		

施策の方向性⑥ 確かな英語力を育む教育の推進

グローバル化が進展する社会を生き抜く人材を育成するため、英語の授業改善や指導体制の充実を通して、児童生徒の確かな英語力を育む教育を推進します。

【今後の取組】

- 指導のPDCAサイクルに基づいた「指導と評価の一体化」の実践やICTの活用促進等による学習指導の改善を通して、4技能のバランスのとれた英語力（特に「話すこと」）の向上に取り組めます。
- 小学校英語専科教員の配置を計画的に進めるとともに、当該教員を支援する体制の構築を推進します。
- 県立学校における外国語指導助手（ALT）について、国による全国調査の結果や学校のニーズ等を踏まえ、適切な配置に努めます。

施策の方向性⑦ 世界を体感する教育の充実

海外姉妹校との学校間交流の支援や外国人との交流などの体験的学習の提供、海外留学に関する情報発信などを通して、児童生徒の国際的な視野を養い、実践的なコミュニケーション能力の育成を図ります。

【今後の取組】

- 小・中・高等学校の発達段階に応じ、徳島の文化や自然を素材とした英語体験プログラムを実施し、児童生徒が世界を体感する場を提供します。
- 全ての児童生徒が国際的な視野を身に付け、海外への関心を高めるため、県内在住外国人との交流やICT環境などの有効な活用を通して、国際性を育むことができる教育活動を推進します。
- 留学・語学研修を希望する中学生や高校生に対して経費の支援を行い、留学の促進を図ります。また、海外の高等学校・大学への留学・進学について、中学生や高校生、保護者に対し各種の情報提供や手続面の支援を行います。